

# 教え子を再び戦場に送るな！

12月8日は 太平洋戦争開始67周年  
 政府文書をもとに  
**田母神論文を考える**

12月8日は、太平洋戦争開戦の日です。田母神前空幕長の

「日本は侵略国家だったなどというのは濡れ衣」とアパの論文に書きました。

彼の個人的な問題でなく、自衛隊内部の教育で、彼が主張するような内容の歴史観の教育がおこなわれています。

南京虐殺や従軍慰安婦問題などを否定する「新しい歴史教科書をつくる会」などのメンバーが講師となっています。

## 「満州事変」(柳条湖事件)

日本軍が暴走—政府は追認

1931年9月19日、「今回の事件は、まったく軍部の計画的行動に出たものと想像される」事件翌日に外務省在奉天総領事がうった電報です。満州鉄道を爆破したのは関東軍。しかし、日本軍は中国軍のしわざとして満鉄を占領しました。

## 日中戦争

侵略開始—「壊滅」の方針

1937年7月7日。中国への全面的な侵略戦争が始められます。翌年1月に天皇が出席した御前会議この戦争への対応を決めました。

「支那(中国)現中央政府が和を求めてこない場合は、(中略)…帝国は壊滅を図る」

## 「生存圏」決定

開戦一年前に支配を画策

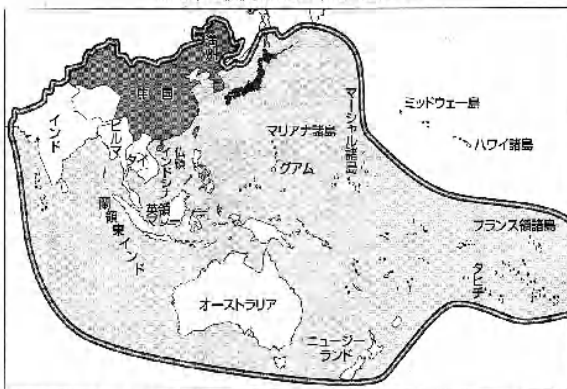
1940年9月、政府と軍の大本営政府連絡会議は日本の「生存圏」の範囲を地図のように決めました。

田母神氏のいうルーズベルト米大統領の畧とは言えません。

アジア各地を

帝国領土に決定

1940年に決定した日本の「生存圏」



1940年9月16日、大本営政府連絡会議決定「日独が枢軸強化に関する件」にもとづき作成

43年5月の御前会議で決めた「大東亜政略指導大綱」に「『マライ』『スマトラ』『ジャワ』『ボルネオ』『セレベス』は帝国領土と決定し重要資源供給地として、…と地下資源のために帝国領土のするという議論をしていました。

アジア・太平洋での戦争は日本支配の確立と領土の拡大であったことは、これらの政府文書がものがたっています。

あらためて学ぼう！

歴史の真実・事実を



2008年12月10日  
 NO. 429

〒561-0874  
 豊中市長興寺南3-5-2  
 TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191  
 Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp  
 Web ページ

**とよなか**

全教豊中教職員組合

http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/

# 対市交渉 よりよい教育を！

## 全国学テ対策の 府学力テスト

全国学テの結果公表について、この間の保護者の声・意見を聞く機会をもった市教委の姿勢を評価しつつ、今後、全国学テや府学力テに参加しないように求めました。

府学力テは

11月～中3実施・

2月小4～中2実施

としています。



11月に実施の中3については、市として府に再考をお願いしていると回答。2月実施予定の府テストは、採点など担任がするとしています。

この問題については今後あらためて話し合うことになりました。

## 改訂指導要領 — 小学校英語でつづる

文科省は中核教員が校内の英語研修に責任をもつとしています。豊中は市教委として、本格実施に向けての研修

をおこなっていきたい回答しました。

## 同和の特別・優遇をやめよ

府旅費の削減や備品購入など教育予算削減がされる一方、「人権教育推進モデル校区事業」（3中学校区 全11小学校）に二期8年間、毎年約400万円近い予算が組まれています。備品・消耗品購入などに使われていること、管外の全同教など出張旅費も確保されていることなど、特別・優遇をやめるべきと全教は主張しました。

任意団体である市人研に対する補助金（07年度198万円）以外にも市が委託する形で全教職員配布の市人研の冊子（85万円）や夏の市人研の人権研修の会場代などを市が補助して、総額約400万円近い予算が使われています。予算の使い道を変えるべきだと強く主張しました。

## 平和史・資料など 博物館での整備を

市民会館を建てかえ、市文化芸術センター（仮称）を検討しています。博物館機能の中で、戦争史資料や文化財を整理することを求めました。

地域教育振興課が作成した豊中歴史文化財ガイドブック。教室で豊中市地図を有効に活用できるように小3年のクラス配布することなどを求めました。



# 切実な要求の実現を阻む橋下「行革」

教員特別手当削減3ヶ月先送り、部活動手当の増額など前進回答  
 時短にむけた「意見交換」、教務事務補助員等の生活保障、メンタルヘルス対策などで足がかり

## 今季闘争の主な到達点

1. 特例条例（4%カット）による一時金を12月10日に支給  
 （期末手当1.6月勤働手当（標準）0.735月合計2.335月）
2. 職員の給与・勤務条件については、合意を目指し、所要の協議をおこなう
3. 教務事務補助員等については、その生活保障を念頭に最大限努力
4. 教育職給料表について、09年1月から改定（「特2級」）。また、その職務段階別加算は、国庫基準通りに
5. 教員特別手当の縮減については、09年4月から実施。部活動手当については、週休日等に6時間以上は2900円（現行2500円）、それ以外は2400円（現行2000円）に増額。その他の業務に係る手当額は現行の倍額を09年4月から実施。
6. 勤務時間の短縮については、今後の動向を見定めながら、意見交換していきたい
7. 出張に伴って個人負担があってはならない、周知徹底する。また、学校関係の入園料等の予算措置について、市町村教委に通知を検討
8. 教員のメンタルヘルス対策について、①復帰支援事業は、気持ちとしては3クール維持したい、②復帰時の人的措置は、一步でも早く前向きに確保できるよう努力
9. 評価・育成システムの結果開示については、知事部局に合わせる
10. 東京都特別区内に勤務する者の地域手当を、09年4月1日から13%に改定

「民間では首切りが当たり前。身分保障されている公務員の労働条件改善要求などもつてのほか」と言いながら、関西州実現のためには採算を度外視して、高速道路建

大不況下でこそ、公務・民間労働者の雇用確保と賃金改善・時短をすすめ、府民生活の安定・大阪経済の立て直し、

人件費削減後、最初のたたかいとなった秋季年末闘争。府労組連は、関西財界いいなり、府民・職員犠牲の橋下「行革」撤回をかけた、諸要求実現のたたかいを進めてきました。

しかしこの間、府民施策の切り捨てを許さない運動を通じ、「知事選では橋下さんに投票したが、弱い者いじめばかりで失望した」などの世論変化が生まれています。

設を推進する」と公言する知事。

府財政の再建に真正面から取り組み府政が求められます。

「橋下府政から府民のくらし・文化・大阪を守れ」との世論と運動を大きく高め、維新プログラム案の撤回と府政の転換を求めるたたかいをさらに強めていくでしょう。



# みんなで考えよう どうなる どうする 新学習指導要領 VI 理科

「理科重視？」  
問題あいの改訂のわが国

現行要領は現場や理科教育関係者から批判がありました。改訂要領は、授業時数が増加し、内容も増えています。内容面で評価できる部分もありますが、改訂の経過を見ると問題ありといえます。

中教審教育課程部会答申では次のようなことが書かれています。科学技術は競争力と生産性向上の源泉であり、競争を担う人材の育成が重要な課題

さらに、思考力や表現力についても、金融自由化や規制緩和改革を肯定し、このような社会において自己責任を果たして、その中で解決する力が必要なんだとしています。改訂が子どもを人間として育

てようとするのではなく、国際競争に打ち勝つ人材の育成という観点でだされていることをおさえる必要があります。

内容と時間数

「理科重視」で授業時数は増えています。しかし、学習内容も増えています。

## 小学校理科

小3年生では「ものの重さ」「風やゴムのはたらき」「身近な自然の観察」が新たに追加されています。現行から削減されたものはなく、20時間で時間数が足りるのか心配です。

5・6年であった課題選択はなくなり、どちらも必修になっています。「動物の誕生」では、メダカの卵の変化と人の発生の両方を学習できるように取りました。「受精に至る過程は取り

扱わない」となっていますが、どのように受精卵ができるか、植物の受粉・受精とともに重要な内容だと思えます。

6年生では現行で「取り扱わない」とされた食物連鎖が追加されています。「電気の利用」も新規内容で、89年要領で6年生が学習していた復活です。手回し発電機などの新たな教材が必要になってきます。

## 中学理科

中学理科では小項目数が現行27↓新39と増加します。批判の強かったイオンや遺伝が復活しています。時間数との関連でいうと、現行週28から週29となり、ゆとりのない学校になる懸念があります。

理科の教育過程づくり

小3年では、論理的思考力が十分発達していない時期。五感に働きかける授業を組み立ていく必要があります。「実感をもなった理解」という目標の

挿入から、体験・飼育や観察、ものづくりをことごとくいれると時間数が不足することも考えられます。

新しい教材備品購入など、予算化されています。自然科学の認識を深めるため、学校でどのような教育課程をつくるのか集団的な検討をすすめましょう。

主な学習内容の変更点

学年	学習内容	低学年(生活科)						
		3年	4年	5年	6年			
3年	物と重さ(新追加)							
	風とゴムのはたらき(新追加)							
	身近な自然の観察(新追加)							
4年	水の三態変化(地球と宇宙→物質・エネルギー領域変更)							
	ひと体のつくりと運動(89年版3年学習内容)							
5年	天気の様子(5年から移行)							
	ふりこの運動(「物体の衝突」は中学へ移行)							
	電流のはたらき(6年から移行)							
6年	動物の誕生(選択なしで、必修)							
	てこの規則性(5年から移行)							
	土地のつくりと変化(選択なし)							
	電気の利用(新追加)							
	月と太陽(新追加)							
		改訂	102(3)	105(3)	90(2.6)	105(3)	105(3)	105(3)